

これからの熊野古道 地域の心が息づく旅へ



ほんの半世紀に急ぎ足で出来上がった、今の私たちの生活。その間、日本人の心のありようは大きく変化した。自然と生きた人の営み・神仏の気配の残る熊野古道は、現代社会を生きる私たちに何かを語りかける。

古道の守人

優しいお顔、小柄な観音石像が立ち並び、山頂へ続く石畳の道。熊野市大泊町の集落に、江戸時代から受け継がれる「観音道」がある。

手にお供えのコハナと水を提げ、石畳を上がりながら掃除をする人の姿があった。集落に住む向井弘晏さん(69)だ。向井さんにとって観音道は子どもの頃からの遊び場。退職後に、清掃や案内のため、この古道をじっくりと歩きはじめた。

文化的景観の意義

「道は、五年で姿を変えます」。紀南ツアーデザインセンター主催のツアーで、向井さんは、放置された古道と、人の手が入り続けた古道を写真で示す。

熊野古道伊勢路のひとつであるこの道は、文化的景観の価値が認められ、世界遺産となった。文化的景観とは、人と自然との相互作用によって生み出された景観のこと。自然を尊重した人の営みの中に生まれた景観には、文化的な意義もあるという考えだ。

大泊の信仰

観音信仰が普及した江戸時代、観音さまを山頂のお堂に持つこの集落に、近在の多くの信者により西国三十三所の観音石像が、お堂までの石畳に寄進された。物が豊かでない時代、観音さまは心のよりどころとされ、毎日の参詣、お祭りなど賑わいを見せていた。

向井さんは、お堂で行う「餅ほり」が待ち遠しかった子どもの頃の話、古道での遊びや道中の植物など、ほつとする話でなごませてくれる。地域の人ならではの身近な話が、向井さんのツアーをととても魅力的にしていた。

つながる心

元来、地域の人により守られてい



神仏に手をあわせる。熊野古道は心で歩く道といえる。

た熊野古道。抱え

る問題の

ひとつに

「後継者

不足」が

ある。産

業、伝統、そして道から生まれた文化。人から人へ引き継がなければ途絶えてしまわないのだろうか。



観音道のツアーを担当する向井さんに、そんな心配ごとを思い切つて聞いてみた。すると向井さんは実にさっぱりと「あまり気にはしてないんです」と言う。「地域に目を向けたとき、古道を歩く先輩の姿がありました。今では自然と自分がその立場につきました。皆そんなものではないでしょうか」。自分の地域が好きだから、できることをただ続けるだけ——。そう言つて向井さんは、

観音道の崩れ

かけたお堂を

元の自然崇拜

の形に戻す、

新たな願いを

話してくれた。

「祠を復活

させる時は、

手伝わせてく

ださい」と、参

加者から声があ

丸山千枚田の壮大な風景を眼下に望む「通り峠」。古道ウォーカーに人気の熊野古道だ。この地域に住む杉村吉保さん(79)と歩いた。

記憶の通り峠

手に持つのは竹箒。杉

村さんは、枯れ枝や落ち葉を掃きながら石畳を歩く。

「ここは生活道やったから、そう文献も残っていなくてね。私のする話も口伝えがほとんどなんですよ」語りかける言葉はあくまで優しい。

通り峠は、吉野方面へと続く生活の道。魚屋が天秤棒をかつぎ、中央へと運ばれる炭の交易や人の往来があった。昭和五年頃、県道が整備され車が走り出し、通り峠を歩く人は少なくなった。今は杉村さんがほぼ一人で古道の見守り役を務める。

冬場の来訪こそ少ないが、春から秋、丸山千枚田の絶景を求め、多いときには一日二回、案内するという。坂道をあがると、目の前が開け、向



こうにか
すかに海
が見える。
ここから
尾呂志地
区へ流れ
ていく朝



手に竹箒。古道ですごす姿はとても自然体だ。

霧「風伝おろし」が見渡せると、うれしそうに杉村さんが話す。海は旅人に安堵の想いを抱かせる。かつてここを歩いた旅人も、立ち止まったらに違いない。

杉村さんは、幼い頃、友だちとキノマで峠道を滑って遊んだ。本宮へ歩く巡礼の姿を見たのを今も鮮明に覚えている。「昔からこの道が好きです。なぜか、ここが大切なんです」杉村さんの静かな思いが、旅人を優しくもてなしている。

世界遺産になった今、古道は県や市町など行政機関によって、この先も守られて行くのかもしれない。けれども、楽しみのある古道歩き、こまやかな手入れや保全には、少なからず人の心がささえになつていないのではないだろうか。心を伝える旅、三重・紀南エコツーリズム。世界でエコツーリズムの旅に期待が寄せられるなか、熊野の個性を輝かせる、ひとつの重要な考えを担っている。

三重・紀南エコツーリズムがめざすもの

理念

「私が、自然の一部になる瞬間。」

● 三重・紀南には、熊野の自然の中で育まれた独自の文化が残っています。「旅」を通じてその文化を楽しみ、学び、大切に守っていきます。

● 自然、信仰、祭、食、技……。現代の暮らしの中に豊かさを求める人が集い、感動や喜びを共有できる場、「自然の一部になる瞬間」を提供します。

● そして、発展した現代社会の中で、「自然の摂理を知り、自然とともに生きる知恵を求め」ることの価値を明らかにします。

先人から受け継がれてきた古道は、熊野の豊かさそのもの

熊野古道語り部友の会会長 花尻 薫さん



まだ、熊野古道という名が知られていなかった昭和52年(1977)頃、花尻さんは古道保存のため、体を張ってその価値を唱えてきた一人。仲間と一緒に道の整備や案内板を手づくりで設置。その中には、花尻さんが尊敬する民俗学者岡本実先生や平八洲史先生の姿もあった。世界遺産登録後、全国から注目を集め、熊野にあこがれを抱く人々が大勢訪れる今、地域の人がこそ、その価値にもっと気付いてほしいと願う。

「熊野の魅力に少しでも気付いた若い人達にも、古道の姿を勉強してもらい、国内問わず外国にも呼びかけて欲しい。私たちの力の及ばないところまでも、心をつなげてほしいと思います。」

花尻さんは熊野古道を地域にきちんと残していくことと自ら歩き続ける。その活動は、熊野に生きてよかったと思える地域づくりを担っている。

熊野を極めた人々が案内人を務めます。
熊野の自然と文化を
共有の財産と考え、保全します。
熊野を支える自然観と歴史観を伝えます。
熊野を通じて人々に心の豊かさを届けます。

三重・紀南
エコツーリズム
推進会
の取り組み
2010年5月～11月
実施分から抜粋

熊野を楽しむ達人の会 第51回例会(5月実施)

『絶景! 立間戸谷の滝巡り』

～屏風滝、屏風岩を目指して新緑の中へ～



新緑と滝が織り成す、“とって
おきの熊野”へ出かけた一日。

源助滝

熊野を楽しむ達人の会 第52回例会(5月実施)・第57回例会(10月・11月実施)

『チャレンジ! 瀨八丁から熊野川河口まで』

～カヌーで漕ぎぬく、45kmの旅～(前編・後編、全4回)



長距離を漕ぎぬく達成感、そして変化する川景色の魅力をつらつら味わう。

とっておきの熊野 山村の暮らし体験講座

その二十八(5月実施)

『流れ谷の山里で、茶摘みと番茶作りを楽しむ』



手摘み、手揉みの番茶で熊野の初夏の営みを楽しむ。

熊野を楽しむ達人の会 第55回例会(8月実施)

『楽しく大峰を知る、一泊二日の旅』

～大峰 釈迦ヶ岳登山と前鬼川を行く～



太古から残る山々と渓流を訪れ、1300年の歴史ある宿坊のご当主と懇談する。

熊野を楽しむ達人の会 第56回例会(9月実施)

『月夜の瀨峡』

～川舟で瀨八丁の月見を楽しむ～



普段訪れることの無い空間で、絶え間なく続く自然の営みを感じられる、特別なお月見へ。



三重・紀南エコツーリズム連続講座(9月～3月実施)

『芳遠先生と学ぶ、熊野の歴史』(全7回)

～現代の世相と、意外と知らない郷土の出来事～



熊野について学ぶと同時に歴史から通ずる現代社会について考える。

紀南ツアーデザインセンターで、 “熊野”を楽しむ

紀南地域の自然や歴史、文化を題材にしたさまざまな企画の他、地域で活動されている作家さんの紹介をしております。作り手の方や、生み出される道具・作品を身近に感じてみてください。展示を通して熊野の暮らしを楽しんでいただけたら幸いです。

畑中伊紀 陶展

2010.4.29～5.6

温暖な御浜町で工房馬明窯を持つ畑中伊紀さんの作品展です。五年半の修行後は、地元でやきものを作り続けることにこだわっておられる畑中さん。普段使いの器に加え、畑中さんの若さと創作世界を見ることが出来るオブジェを庭一面



南の海の町 熊野コンサート

2010.9.19



日本のコカリナ(楽器)第一人者の黒坂黒太郎さんとボーカリストで和歌山県新宮市出身の矢口周美さんのコンサートを開きました。矢口さんの故郷への想い、全国各地で地球環境や平和、生活をテーマにした演奏活動を行っているお二人の暖かい楽曲に心の休まるひとときでした。



南秀明 木工展

2010.10.2～2010.10.17

熊野の山深い里、神川町で、工房を営む南秀明さんの工芸品をご紹介します。会場では南さんにお話を聞き、手にとってゆっくり見ていただきました。こだわりの吉野杉の材や仕上げの漆、木肌に残るカンナの表情に、職人技をしっかりと感



■開田風童展 2010.7.17～7.19 ■ここのは書家 須藤花月 こころの書展 in KUMANO 2010.9.2～2010.9.8

ツアーや催し物の案内をご希望の方は、下記の問い合わせ先に連絡をお願いいたします。

- メールでの案内を希望の方は、お名前とメールアドレスを
- お手紙を希望の方は、お名前とご住所、電話番号をお知らせください。

メッセージ

紀南ツアーデザインセンターがスタートして6年9ヶ月が経ちました。この間には、「三重・紀南エコツーリズムがめざすもの」という理念の下に、熊野を楽しんでいただけるような約200本のエコツアーや講座、室内展示などを実施してきました。

企画には、それぞれ、この紀南地域の方々にガイドや講師として参加していただいています。皆さんから提案をいただき、企画の段階からスタッフと共に考えてエコツアーを実施しています。

お客様が、地域の案内人を通じてよりいっそう熊野の良さを体験し、感動することで、心の豊かさ・人の繋がりを大切に感じられる企画にしたいという願いをこめています。

紀南ツアーデザインセンターは、まだまだ成長過程の真っ只中です。そして、熊野の豊かで個性あるすばらしい資源をまだまだ発掘中です。

この地域に暮らす方々と一緒に資源を発掘して、楽しみながら伝え残していきたいという思いを日々持ち続けています。

紀南ツアーデザインセンター、三重・紀南エコツーリズムに興味がある方は、どうぞ一度遊びにいらしてください。そして一緒に熊野の魅力を探ってみましょう。

発行・問い合わせ先

紀南ツアーデザインセンター

〒519-4323 三重県熊野市木本町517番地の1
TEL.0597-85-2001 FAX.0597-89-3210

E-mail ▶ kinan-tdc@nifty.com

U R L ▶ <http://homepage3.nifty.com/kinan-tdc/>

東紀州地域観光圏協議会

